

令和4年度あきる野市スポーツ推進審議会（第4回）議事要旨

開催日時 令和4年11月14日（月）午後7時～9時

開催場所 あきる野市役所 3階 301会議室

出席者 江川委員、吉田委員、町田委員、金網委員、菱田委員、伊東委員、高岸委員
森本(幸)委員、森本(久)委員、村岡委員

事務局 佐藤生涯学習担当部長、高橋スポーツ推進課長、小林スポーツ推進係長、
スポーツ推進係、寺島

1 開 会 高橋スポーツ推進課長

2 挨拶 江川会長

3 議 題

(1) スポーツ推進計画（素案）について

(会長) それでは議事に従いまして進めたいと思います。本日は、第2次推進計画（素案）につきまして、皆さんにお諮りしたいと思います。それでは、まず事務局よりご説明をお願いします。

(事務局) それでは配布資料についてご説明させていただきます。事前に配布しております第2次スポーツ推進計画（素案）をご覧ください。第2次スポーツ推進課計画（素案）でございますが、第2回、第3回の審議会において、皆様よりご意見等をいただきまして、再度、内容等の修正をさせていただいたものになります。修正した箇所につきましては、前回同様、文言を朱書きで表示しております。主な修正内容につきましては、別途、主な修正項目一覧に該当ページごとに、修正項目をまとめさせていただきましたので、再度確認の方をお願いしたいと思います。

その他、資料送付後に、新たに、修正箇所が見つかりましたので、報告させていただきます。9月の審議会においても説明させていただきましたが、アンケートの算定にあたって、本来母数に含めて算定してはいけないところも、含めて算定していた箇所が3ヶ所見つかりましたので、併せて修正させていただきたいと思います。該当のページですけれども、22ページ。図表2-20、こちらの表なんですけれども、10歳代のところが抜けておまして、一部、含めてはいけない数字の方もあわせて算定していたため、この辺も含めての微修正となります。同じく22ページ図表2-21のところでございます。こちらの方につきましても、 $n=388$ となっておりますけれども、この数値には、誤りはないのですが、表示はされていないのですが、388人以外のものを含めて算定された%になっていましたので、そのすべての%の数値を微修正させていただきたいと思います。最後、3つ目ですが、24ページ、2-23の表になります。こちらと同じく $n=444$ と表示されておりますが、以外のもを含めての算定ということで、一部の%と数字を修正させていただきたいと思います。新たに見つかった修正箇所については以上となります。

なお、9月の審議会より、3回にわたりまして次期計画の素案に対して、皆様から

ご意見等いただいて修正等を行なって参りましたが、今回の会議で審議いただいた内容等を反映させたもので、一旦、教育委員会及び議会に計画の素案として報告させていただき、併せてパブリックコメントを実施し、いただいたご意見等を踏まえて、計画の修正を行いまして、来年の2月の審議会において、最終的な計画案として、お示しし、最終的にご審議をいただく予定としております。第2次スポーツ推進計画（素案）の概要についての説明は以上となります。

(会長) 今、グラフの数値の正しいものは、後ほど提示されると思いますのでご確認いただきたいという事と、別紙で主な修正項目を、あらかじめお配りされてると思いますが、委員の皆さんからご指摘いただいた箇所について、正しく修正されてるかどうかも含めて、今回、ご確認いただきたいと思います。その確認の上で、ご質問など、いただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

いかがでしょうか。前回は、「～で、～に、～を、～は、」とか細かいことまで修正していただきましたけれども、それ以外で、この後、パブリックコメントまで含めていくと、表に公表されていきますので、お気づきの点があればご審議いただければと思いますし、わかりにくいところがあれば、ご質問いただければと思います。

(委員) 何点か、申し上げますが、まず表記で、「など」という言葉が、ひらがなの「など」の場合と、漢字の「等(など)」の場合があり、例えば45ページ、同じページの中でも、上から4行目、メンタルというカタカナが書いてありますが、その少し前が「外出制限等」というのは漢字で書かれていまして。その下の、表、主な取り組み概要、真ん中の、情報の発信のところで、「子育て世代など」というのは、ひらがなの「など」になっている。少し見ると、結構色々なページで、「など」が、漢字とひらがながあって、意図的ならばいいですけど。ページによってだけではなくて、同じページの中でも、表記が違っていたりしているので、そこが気になるなど。

それから、28ページ。ここで、(3)の本市のスポーツ団体の状況ということで、1行あいた「ア」の部分で、「NPO法人あきる野市スポーツ協会」NPO法人であることが明記されている。ですけれども、下の方、一番下から3行目の「あきる野総合スポーツクラブ」もNPO法人と並ぶような一般社団法人ですけれども、こちらは法人格の明記がない。どっちかに統一していただければいいですけど、そこが気になったところです。それ以下、「アスポルト」という、となっているので、ここだけ、スポーツ協会にあわせて、「一般社団法人あきる野総合スポーツクラブ」と書いていただければいいのかなと思いました。

3つ目ですけれども、これはここに同席されている皆さんにも問いかけたいですが、36ページ(5)課題の整理という文字から始まっているところですが、3つの視点に基づく課題の整理ということで、半分より少し上のところに表になっていまして、分野の「する、みる、ささえる」の「する」のところに、色々な課題ですよ。低いスポーツ実施率の世代のところの課題ですとか、場所の確保、パラスポーツの実施率、コロナ禍による運動する機会の減少、スポーツ施設の老朽化、スポーツ団体会員数の減少、具体的に、書かれていて、今後この素案が、9年間の計画と考えると、運動部活動の地域移行も課題としてここにも入れておいたほうがいいのではないのかな。今、この3年以内にどうするとか、そこからさらに、というふうに国がスケジュールを示しているのが、ちょうどこの推進計画の令和5年4月からのところの、最初の9年、かぶってくるころなので、この後のページでも触れてはいますが、これだけ「する」のところも課題を明記したのであれば、これも非常に難しい問題だと思うので、これはどちらかという、地域の問題よりも、方向転換の問題で、地域が抱えな

ければいけない課題であり、これもここに、一文あってもいいのではないかと。ここにないことで、課題ではないような、あくまでも部活動の改革のところにっては「する」の分野かと思っておりますので、ここに一文あってもいいのかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

(会長) 今のご発言の趣旨を、整理させていただくと、地域移行という問題があつて、それが始まりますということ踏まえて、今回の計画に盛り込むかどうかというご意見だと思います。現状では、既定路線として載せることがおこりますし、それから既にその準備段階であるという自治体もあります。市でどこまで行くのかというのは、今後の計画期間で、また考えなければいけないと思っておりますが、この時期がちょうど重なるので、計画書に盛り込んだらどうかというご意見だったと思っております。それについての是非というかご意見、また、提案に対する質問があつてもいいかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。これは特に学校関係ですけど、どうですか。

(委員) 地域移行と考えると、学校だけの話題ではないかなと思つたんですけど。

(委員) 学校的には、まずその部活動が移行するということでは、生徒とすれば「する」ですけれども、地域全体で、その指導者等と考えると「ささえる」というところにも関連しますよね。その辺りのところの整理がどうなんだということと、あとは、後ろの方を拝見させていただくと、きちんと44ページに、「運動部活動の地域移行」とはと書かれていて、その前のページの「する機会の充実」の中の一歩下に部活動の地域移行とか入っているので、わかりません。程度の問題と分け方の問題と感じました。

(会長) 地域も学校も別々に存在するものではないですが、この計画自体が成人のスポーツ実施率70%という大きな目標がある中で、地域で子どもたちを受け入れ、特に「する」という実施だけではなくて、「みる」、「ささえる」ということまで、広げていくことを考えた時の今のご提案だと思っておりますので、わからないという意見も一つ大きなことだと思います。今の段階では、どちらでも判断ができないということも一つ大きな意見だと思います。今、ご発言いただいた通り、43ページの「する」と書いてあるのは、「子どもがする」なんですよね。だから、少し整理が甘いところがあつて、「成人がする」という意味で、もしここに、地域移行というのがあれば、指導者もスポーツをするよね、指導しながら体動かすよね、みたいなことが含んでいるのではないかとということまで読み取っていただくか、それとも、それが難しいのであればしっかりとそれを書くということが必要なので、地域移行が「する」機会の充実があるというのは、総論では正しいですが、この計画は、成人が「する」ということに限ったのであれば、運動部活動が地域に移行しても、成人はスポーツ実施率に関わる、関わらないかというのは、皆様の、肌の感覚が大事だと思います。日頃、指導されている立場ではいかがでしょうか。43ページ、ご指摘いただいたので、学校におけるスポーツの充実と体力向上ですね、実は成人のスポーツ実施率とは直接は関わらない話でして、そういった点で考えると、子どもや親子を対象としたスポーツ大会・イベントなど、半分は成人ですけども半分は子ども、ただ広く考えて、この期間中に成人になる子どももいますので、そういう厳密に区分けするというよりは、学校と地域が一体となってスポーツに取り組んでいこうというのが、これまでの審議会での、流れだったと思っておりますので、そういう点も踏まえて、ご発言を是非いただきたいと思っております。

(委員) 今の関係ですけども、一般的な捉え方として、学校の部活動というのは、一般の市民については、あまり良く理解されていないというのが多いです。同じスポーツという観点で全部横並びにしろなど、何か理解しにくいところと言うならば、そういった状況があるので、この中では、全てに合致するような形で入れていくという

のは、難しいので、今の会長がおっしゃったような形で、考え方をあらわされれば、私はそれでいいのかなと思います。

(会長) 特に、多数決とかそういうことではなくて、気付いた点について、いろいろな意見をお聞かせいただくと思うのですが。書いて目標にするのかどうかという点では、難しいのかなと、ただ、無視しているわけではなくて、いくつかの場所では、記載をしている。だから完全に地域移行ということを考えていないということではないが、ただ積極的にロードマップを書いているだとか、そういう訳でもない。それは、ある意味、今、市の現状を反映しているのかなという気はしますが、今、最初のご発言の意図として、理解するのであれば、ここに書くことで、もう少し早くとか、もう少し内容も充実させることができるのではないかという主旨であれば、目標には直接かかわらないけれども、表に少し付け加えられるのではないかというのは、余地があるかなと思ひまして、今の発言をさせていただきました。簡単に言えば、部活動を大事にしていますということと、それから子どもも将来の成人だから、一緒にスポーツをやっていきましょう、というような趣旨です。部活動問題いかがでしょうか。ちなみに今、あきる野の子どもたちは体育嫌いですか。

(委員) そんなことはないですね、私が感じているところでは。小学校ですけど、それはないと思います。

(会長) どうしても、専門的に見ると二極化と言いついてしまっていて、体育が嫌いな子と好きな子とか、それから上手な子と上手じゃない子というふうに見がちですけども、私はそれほどそんなに二極化を心配していないのは、方向が変わってきたのかなと。やりたい事がいっぱい増えたからかなと思うのですが。ただ、あきる野の特性としては、運動するチャンスも多いし、指導者も全然ない訳ではないし、それからたどっていけば、チャンスは広がるのかなという点で、決して悪い環境にはないと思うのですけれども、それでもやっぱり差があるというのは事実だと思う。少し苦手な子を減らしていくとか、それから「みる」とか、「ささえる」という我々の立場で言えば、運動会とか、いろいろなイベントの時に、市の計画に書いてあるといえるかどうかというのは、もしかしたら大きな事かもしれません。そういう点では今、パブリックコメントの途中ですけども、そういう点での記載を入れるという提案なので、できれば、どんな視点でも良いが、ご発言いただきたいなと思ひていますが、いかがでしょうか。小、中、高校生。未就学も含めてですけどね。指導者問題が絡むので、人材とか、どちらかという社会環境みたいな側面での議論も当然必要かと思うのですが、もし思いついたらご発言いただければと思います。

(委員) 部活動問題の時に「中体連」の関係があるんです、部活動ですから。となると大会が絡んでくると思うんです。試合ですよ、勝ち負けが絡んでくるんですね。そこで問題の時に、私は今、柔道を教えていますけれども、中学校の授業で役立つ柔道を教えるという立場でだいたいいます。そうやって中学校の教科書をもとに技を全部分析して、教えてあげて、君たちも同じように教えていくんだよと。そのため人格形成と試合に勝つ、2種類いると。6年生ぐらいのところは、ガンガンやるのは良いですけども、やらなかったら、そういう柔道を教える子になりなさいとしている。アスポートもそうですよね、試合よりもむしろ、人格形成であるという、そういうのを目指している。そういうことと、今のこの中学校の先生が期待する、親も期待する部活動の活動内容が、噛み合えば良いですよ。噛み合わなくて、東中のサッカー部は、ガンガン試合に行つて勝つように教える。ところが、西中のサッカー部に関しては中学の体育の授業で、君たちがサイドキックを教えるようなテクニックを身につけなさい

という指導者、全然違います。そうすると、部活動は何をやるの。その辺で、部活動を単に地域に戻せとか、いろいろなことを言いますけれども、スポーツを今後どのようにしていくのか、試合のようにガンガン持って行って、今まで通りの流れでいくのか、人格形成を重んじるような流れに持っていくのか、議論すると違うと思うんですよ。それによって保護者の感覚も違ってくるし、下手すると、他の部活動の中の先生たちの感覚、考え方も違ってくると思うんですよ。どういうふうに、それをまとめていくのか。おそらくそういう指導者の派遣をするスポーツ協会から、柔道連盟は教育指導ができますかと打診がくると思いますよ。そういう時に私たちの定年退職したような人間がいくしかありませんから、現職の人たちができる訳ありませんから、定年退職した人が、外部指導として大体教えにまわるだろう。その後、それをどういうふうに考えていくのかというのが非常に難しいと思います。それとさっき、言葉遣いで等(とう)と読みます、等(など)の問題。漢字の「等(とう)」と「など」、学校現場でいろいろな文章を読んでいます、**「など」と読まない**ですね。いつも**「とう」**です。**「など」と読まない**。そして公文書はだいたい**「とう」**でした。**「など」となると、柔らかい**感じがして、だから、これが公文書と考えると、全部、等という漢字で、読み方を**「とう」と統一した方が**いいのかなと思います。ただし、一般の人も読むかもしれないとなると文章の中で、柔らかい文言になる時は、**「など」**が良いのかなというふうに思いました。以上です。

(委員) 「等(とう)」と「など」、気になったので、今、調べたんですけど、やっぱり漢字を使うのか、ひらがなを使うのか、ひらがなの「など」、その3つの使い分けがあるらしいので、混在していても使いわけなので、漢字で使っているところと、ひらがなで使っているところがあってもいいのではないかな。使い分けなので、一つに統一するというよりは、使い分けた方がいい。

(会長) このテーマだけでも、また落ち着いた時期に、やらなければいけない大きなテーマなんですけれども、この計画の中に、いくつかトピックとかコラムとか、記載の部分で入ってはいるので、無視していないという点では今、悪くはないのか。ただ積極的になっていると言われた時に、他市とかと比べて、もし先行事例が出てくると、遅れているということになるので、我々が今の現状にある積極的に地域移行ということ意識しているということをやうのか。現状でいいと考えるのか、その辺りだと思いますので、パブリックコメントも含めて、まだ、修正かかると思いますから、また考えていただければと思います。今日予定していなかったものですので、ただ大事なテーマであることは、計画始まってすぐに始まることなので、皆さんにもまたご意見いただく機会を設けたいと思います。

(委員) 指摘させていただきたいところは、そういう状況であります。また、この素案が素案でなくなった際に発言すべきかもしれないですけども、これができ上がった時にどう実施するのかというのは、すごく気になります。スポーツ推進課も多くの職員がいらっしゃる訳ではなくて、その中で、私はこの基本目標1から5まであって、基本目標4のところ、市の特性を生かしたスポーツの推進という項目。個人的にはこれを基本目標1にしたいという思いがあります。ただ、1, 2, 3, 4, 5, の順番で、優位性があるわけではないので、あくまで、感覚的なものなんですけれども、うちのクラブでお散歩クラブというプログラムがあって、月に1回土曜日に、3時間ぐらいのハイキングをするというのがあって、この間、情報をキャッチして、初めて都心の方が来られたんですよ。文京区の方ですけど。その方が、作られた自然豊かな公園はあるけど、本当の自然というのは、東京都の中で初めて触れたというようなことをお

っしゃっていて、とにかく我々が住んでる地域というのは、そういう価値があるところなので、第2次計画、スポーツ推進で、ウォーキングだとかそういうところに、この市の特性を生かしたスポーツの推進というのを、もっと強めてもいいのではないかなという思いです。ただ、それを市がやりなさいというと、すぐに限界がくると思うんですよ。逆にそういう地域だからこそ市民でそういう活動しているところが、幾つかあるんですよ。私知ってるのと知らないところと両方あると思うんですけど。そういうところの情報をスポーツを司る部署でしっかりと把握をして、こういう活動しているとかというのが、そういう仕組みが作れば、それは一つ戦略になるのではないかな。何でも市でイベントを立てようとか、やるだけじゃなくて、例えば総合型地域スポーツクラブの中で、そういうプログラムがあるということは、もう市としては、1つそういう動きをしたという実績にもなるし、それが人数が増えてきますとか、回数が増えている。回数が増えれば、延べ人数が増えてくるという実績になってくるでしょうし。他にも、そういう市民団体とかがあれば、別に公認、非公認とかそういうことではなくて、活動をしっかり認知しておくことで、実績になってくるだろうから、そういうものがあるところには必ずそれを生かす活動があったりするもので、その辺がおそらく情報が、さほど集約されていないのではないかな。私、存じ上げないんですけども、「ハセツネカップ」という大会の記録を見ていたら、今年過去3年ぶりに開催されて、上位の成績の中にあきる野市役所所属の方が、いらっしたんですけども、すごいと思って。今回、第30年目なんですけれども、第2回大会では、市役所の職員の方が優勝されていて、それをあきる野市の市役所がどこまで、市で開催、あきる野市だけじゃないですけど、檜原村とか奥多摩町とか、絡んでいきますけど。大会が開催されている中に、そういう方もいるんだと、どのぐらい認知されているのかなとか。プロかアマチュアかの違いだけであって、素晴らしい実績でもあると思いますので、そういった情報をできるだけキャッチするようにするだけで、それだけで、一つの戦略になるのかなと。是非そういったところへのアンテナを張り巡らせることによって実現に近づけるとか、数値のアップに近づける、内容のクオリティのレベルアップに近づけるといふところにいければと思ました。以上です。

(会長) 情報発信は以前から課題になっていて、まだその評価がされていないので、例えば、今の職員の方が、優秀な成績を収めていることは、本来公開すべきなのかどうかとか、議論があると思いますけど、少なくとも、情報発信というのは、ヒアリングシートでもうたっていますし、いろいろな集約をしなければ、発信できませんので、これから、またいろいろなターゲットに向かって発信する際に、委員の皆様方にご協力いただければと思います。

(委員) 前回の会議の時に、五日市高校でボルダリングがあるという話があったのではないですか。私も五日市高校のアウトドアコースのところと絡んでいて、ボルダリング講座という公開講座があつて、あまり人が集まっていない状況で、うちのクラブでも情報発信をしたら、市民で小学2年生のお子さんと、あと、21歳の方が参加したいとなりました。五日市高校の中にあるボルダリング場を使った公開講座、東京都の予算を使って、講師を呼んで、低価格の講習会があつたりとか、この辺も先ほど言った話に結びつくのかなと、「ボルダリング場を作りましょう」といふと大変ですけど、市内にあるものを活用する時に協力すれば、すごく低コストで、市も活躍できたことになるのかなというふうに思います。

(会長) 機会を充実するというのが、随所に掲げている第2期計画ではあるんですけども、決してその「ハード」を作らないという意味ではなくて、「ハード」も計画的に整備

をするけれども、今みたいなどこに行けばやってるよとか、そういった情報を提供する方が、もっと身近なものですし、例えばすぐ今週末できるとか、そういうことになるので手短にスポーツできないとか、できるとか、それから計画書全体で見ると「する」というトーンがまだ強いですけれども、「ささえる」といった時に、例えば今みたいな情報提供して下さることも「ささえる」1つの姿ですし、それから「みる」というのは、この報告書だと少し少ないですけれども、ボルダリングやらないけども、そういう学校のイベントに参加すれば、そういう競技をやっている姿が見れる訳で、いずれ興味があって、ボルダリングができるようになるかもしれないし、できないけれども支えてあげたいという人が増えるかもしれないので、そういう点では、今、この情報を審議会を持ち寄っていただくこと自体、実は、いいことだと思っています。

(委員) 五日市高校のは、地域の自治会の回覧版で回ってきたので知っていました。高校もあきる野の広報、学校の会報など入れていないのかな。五日市地域は、入れているのかもしれないですけど、すごい情報発信が大事だと思いました。

(会長) 例えばボルダリングというのは、8万人全員がやっている訳ではないスポーツだと考えた時に、五日市でやっているから、回覧版は五日市だけに回せばいいとか。どうしても学校区という発想があると思いますが、役所に情報を流したら、例えば市の広報レベルまでは、いかないかもしれないけれども、興味がありそうな、例えば旧秋川地区に、少し情報を流してあげるとか。そしたらボルダリングに、反応する人達が別の町から来るかもしれないですよ。だから、そういうようなことが、この計画の中に、例えば口コミみたいな話とか情報発信みたいな話とか。最初の指摘は、情報を集約するみたいな機能をどこに戻すのかという指摘もありましたけれども、その観点でいくと、ボルダリングに限らないですけれども。11月の15日はどこかで誰かが歩いているとか。それはオープンだから、申し込まなくても、当日飛び入りで参加できるレースとか、競技会みたいなもので、少し敷居は高いけれどもエントリーすると、出場できるとか。そういったことも含めて、広い意味でスポーツというようなものが、実は、ないですよ。スポーツ協会がやるような一覧というのはもちろん広報で出ますから全員知っているはずなんですけれども、そういう種目とか競技団体というのではなくて、もう少し市民が簡単に、手軽に、身近にというのが、今の話で、ボルダリングを例にすれば、おそらく8万人のうち1割ぐらいがしたいけれども、どこでやっていいかわからないとか、今週やりたくて、うずうずしているけれども、やる場所がないとすれば、もし情報だけでもめぐれば、旧五日市地区の人たちはできたのに、旧秋川地区に住んでいるだけで、できなかったというよりは、全員ができた方が良く考えると、そういう目標があってもいいですよ、という感じがしたのですけれども。校長先生も別に情報を出さないといっている意味ではなくて、普通に出していると思うんですよ。

(委員) 自治会とかに入っていないと回覧板は回らないものなんですか。

(委員) 回らないです。

(委員) 回らないですか。五日市地区は、結構自治会に入っている率が高いですよ。秋川の方に話を聞くと、あまり入っていないという話になってくると、回覧が情報源の1つとして、捉えていくのかどうかかわからないですけど。何か皆さんが公平に、自分で情報を取りに行くというのが、一番いいのかもしれないけれども、取りに行くにしても、発信してくれなければいけないですよ。

(委員) 東京都、都立高校ですから、東京都の広報に出ているのかもしれないですね。

(委員) 東京都の新聞をとっている方の家は漏れなく入ってくるんですけど、最近、新聞を

とられていない方がいます。そうすると、公共のところに置いてあるという状態ですけど、なかなか難しいですね。今、広報もそうだし、広報も新聞もとっている方には、もれなくあきる野市広報は入るけど、そうではない方は、自分で申請をすれば、届けていただいたり、自分であるところに行ってとってくるという。

(会長)

今の意見交換の中ではやはり、情報発信は必要。それから情報を何かの仕組みで集めるということをしていかないと、70%には近づかないというようなことを共有できたように思います。次に40ページですね、この会をまとめる立場で、皆さんの意見をいろいろお伺いしたのですけれども、実は少し難しいことが、サラッと書いてあるところがありまして、40ページの数値目標というところに、皆さんには成人70%ということで、ご理解いただいているのですが、実は令和9年度以降は70%を維持という米印が表の下に書かれております。お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、70%維持ということは結構大きな目標でして、もともと70%まで到達していないということなので、今の時点ではそれほど議論をしない、議論が深まらないと思いますが、60%に今いこうとしている段階で、9年度以降ということですので、そんなに先ではないですね。この手の目標を日本だけではなくて、様々な目標を立てているんですけれども、たいていの場合100%になりません。当たり前ですけど、世の中全員がなるというのは、おかしなことですから維持というのは妥当な目標ではあるのですが、国がそうなっているのかとか、都がどうなっているかをみても一応はそこまで終わっているんですね。だから、是非、皆さん方、またご意見いただきたいのは、あきる野の良さを生かすといったときに、2つの基礎自治体が合併してから、その差がなくなりつつありますけれども、やはりそういう特性もありますし、歴史的な背景もありますし、それから推進委員という、ずっと続いている良い仕組みも、今でも継続していますので、70%維持といったところが、できるようになるには、どういうことが必要なのか、今、情報発信というのも1つの手だと思いますので、いろいろなアイデアをいただければと思いますし、前回の議論もそうだったんですけど、川は国交省だから関係ないとか、スポーツやるのに関係ないですよ。都立高校だからとかいってしまった瞬間に、親はなんなんですかという話になり、どこか勤めていますから関係ありませんというわけではないですね。だから部活動が、地域と学校をまたがっていったときに、我々まだ形にできていない思いとしては、指導員とか支えるという人達があきる野にはたくさんいて、活躍できるチャンスがあるというようなことが盛り込まれていけばいいのかなと思いますし、それが部活動が、単独校では、試合に出られないけれども、近隣で集まれば、例えば、野球チームが組めるとか、そういうこともあるので、チャンスを広げるという点で、地域も一肌脱ぎましようというような計画であれば、おそらく委員の皆様方が考えていらっしゃるものが、盛り込めるのかなというような気がしております。ですので、70%がゴールではなくて、70%維持。もちろん、それを超えても構わないですけども、上をいくのは構わないですが、9年度以降は、それを維持するというのが、皆様方の何らかのアイデアが必要だという根拠になりますので、どうぞご協力をよろしくお願ひしたいと思います。計画が、ある程度のこれまでの議論をまとめた形になっていますので、事務局で、今日の議論をくんでいただいて、もし加筆するようなこととか、最初の訂正部分を直していただいた上でいいですけど。まだ少し時間があると思いますので、小さいところで完成度を高めていただいて、委員にフィードバックいただけると良いかなと思うのですけれども、それは可能ですか。等、などの表記の部分と、グラフの修正と、それから今の地域移行の話です。

(事務局) 一旦、教育委員会の資料提供期限が16日ですので、そこで修正をさせていただいたものをみなさんに一旦ご覧いただいて、了解を得てというふうになってしまうと、期限的に厳しいのもありますので、修正は当然かけさせていただきますので、また最終的には2月のところで、もう1回審議会をやりますので、一旦こちらの責任で、修正をかけさせていただいたもので、教育委員会と議会報告をさせていただきたいと思うのですけれども、どうでしょうか。

(会長) 皆様のご同意があれば現行はまず、このものでいかしていただきたいということですが、よろしいでしょうか。

(委員) 全体をもう一回よく読んでみました。細かい提案はだいたいこれで。これがでた後の実行をどうするかという問題は別にあるとして、いくつか気になったのは主語がない文書、結構多いですね。検討しますと書いてありますが、誰がやるんだというように、抜けているところが結構多くて、例えばいくつかありますけど、例えば50ページのカタカナのア、「する」機会の充実、アーバンスポーツなどの実施環境整備を検討とありますよね。この最後の結びは、整備について「検討を行なっていきます」と書いてあります。ということは、これはもう当然、市がやるのかなと思っているのですが、それでいいのかどうか、要するに、こういう主語がないものは、行政がという理解でよろしいですかというのが1つあったんですよ。それとも全体で誰かが考えていけないといけないですよという意味なのか。その辺のところは、こういう文章が正しいのか良くわからないですけど、読む側にとってはどうでもとれるような文章になっているような感じがします。そういう例でいうと例えば53ページの赤くなっている四角の一番上の部分。イベントの開催。四角の一番上の部分。開催について「検討していきます」と書いてあります。誰がいつから検討するのかわからないですね。だから、そういうところを具体的に何か書けないものなのかもしれない、書けないとしたら、具体的に検討するための作業チームを作っていないといけないのではないかなという感じはしますけれども。

(会長) 事務局から回答いただけますか。

(事務局) これは、あきる野市のスポーツを推進するための方針、指針になるものとなりますので、市がとかという話もありますが、市民全体でこの辺は考えていく。そして、できるだけ多くのスポーツに参画していただくというところですよ。

(委員) 主語はあえて書かない。

(事務局) そうですね。主語は、全部のスポーツ団体、地域のスポーツ団体の皆様とか当然、市でありますとか市民の方々に、検討していきたいと思えます。

(会長) 第5章の、56ページに主語に相当する文言が、今日最初の指摘の「等」を使って表現されています。「等」を使うべきところは、市民、地域関係団体、行政等。国の計画でも、都道府県と市町村でも、基本的には、すべての自治体とすべての市民が、主語になるので、理解としてはそうなのですが、ただ、今の指摘は、書かれていないとわからないという側面も、それから書くことで、その仕組みを作り上げるという側面もあるので、例えばですけど、本計画は、あきる野市民、地域、スポーツ関係団体、行政等が、というようなことがきちんと計画の最初なのか、5章で最後に出てくるよりは、はっきりとしておくと行政と市民が協働して、この計画を作ったというのは、1期の計画では書かれているので、2次の今考えているものも、それを踏襲し、行政だけが頑張るのではなくて、市民だけが行政の力を借りないでやるのではなくて、両方がうまく協働連携していきますというような主語をきちんと明確にするということが、もしかしたら今の全体の難しい問題を部活動の話も含めてですけれども、解決してい

く一番手っ取り早い簡単な主語を書くというだけのことかもしれませんが、それはそんな難しい作文ではないので。根拠法もあるので大丈夫ですよ。そんなになんか、あきる野だけが突っ走っていると思われなと思うんですけど。ただ書くかどうかは突っ走っていると思うので、明示するという事は都もやりませんし、国ももちろんやらないので、だから、それがちゃんと市民と協働で、計画策定するというのは、むしろ、あきる野の一番の良さで、今このテーブルについていらっしゃる人の半数近くはそういう経緯をご存知だと思うので。だから第2次計画も、そういう協働でやるというようなことをしっかりとうたえば、今、その質問の答えになっていますか。主語がないという指摘に対して。

(委員) 僕の本場の言いたい事は、文章はつくれると思うのですよ。実際に、せっかく作ったこの計画が、部分的に、或いは小さいところからでもいいけれども、この計画の中に沿って、動いていきたいという気がする訳です。動かしていくような仕組みを作りたいというのが本音です。だから、検討するといったならば、部活動でもそうですけれども、小さい芽からでもいいから作っていかないと、いつまでたっても検討しなすで終わってしまうのではないかなというのが一番心配している。文章は、綺麗に作ってもらえれば良いと思います。作業していくきっかけがあると良いなという気がします。

(会長) 誰がいつからという指摘だったと思うのですけれども、いつからのスタート地点は もちろん、計画の始期、スタートの時期があるのですけれども、結局4月から何をしますとか、2年目の4月にどうなっていますとか、そういうことだと思うのですよね。もちろん計画通りいかないのですけれども、でもすぐにやるべき緊急のものは、もうこういうことが待っていますとか、これはもう9年間、コンスタントにやっていきますとか。何かそういったことが、市民の方に伝わる、そういう計画であれば、共感も呼ぶのではないかというふうに思いますので、場合によっては、色々な関係の方々、パブリックコメントで、わかりにくいとか、わかりやすいとか送っていただくと良いのかもしれませんが、そういったことにより良くなるのがいいのかなと思います。

(委員) 今の話に関連してだと思いますが、56 ページの答えというか、「やります」という項目が赤字で書いてありますが、最後の2行、進捗管理は、マネジメントサイクルの手法の1つであるPDCAサイクルの考え方にに基づき実施。これは、どういう周期で、どういうふうに公開していくのか、もう決まっているようだったら、ここに書く必要はないとまでは言わないですけど、教えてもらえたらと思いますがいかがでしょうか。

(事務局) 今の進捗の管理につきましては、関連性を書くか事業を具体的な個別のところには、今回うたってはいないですが、その事業を年度ごとに、審議会の方に進捗を諮らせていただいて、進めるとか進めないとかというような審議をいただいて、そこに、応じて改善すべき点は改善、次年度以降できるのであればしていく、そのようなことを繰り返していきたいと考えております。

(委員) 基本は1年、年間、年度単位ですか。

(事務局) 年度単位で。以前にも出しているAとかBとかという表です。毎年、審議いただきたいです。

(委員) ということは、今までやってきた流れがそのまま継続されるという課題ですか。進捗管理というのは、やってきたことがそのままということですか。だとすると、個人的には、先に進まない、進んでいないのではないかなと。AとかBとか、昔も言ったことがありますけれども。やれば中身がどうあれAがつくというのは納得がいかない。やればOKということではなくて、それが次に繋がっていかないとはいけないだ

ろうし、計画をやるに当たって、70%達成するために、プラスになっていることと、そこに向かって、どうしていかなければいけないのかなという、新しい何か、案とか出していかないと、やったことに対してA、Bをつけるだけで終わっているだけの感じがして。その辺のプラス、先に進むとか、70%に近づけるためにどうすれば良いのかと、もう少し具体的に話し合うことが、進捗管理になるのではないかなと思うのですけど。その辺で何かプラスでやっていこうみたいなビジョンは、今のところないのか。

(事務局) その部分で、今までご報告させていただいて、この部分が進んでいないのではないかと、なのにこれがAという評価はどうなんだとか、そういったご審議をいただいているのではないかとはいっているのですけれども。もしそういうことで、各課があげてきたものが、そのまま承認といいますか、できていたということであれば、そこは逆にご議論をいただいて、ご意見等をいただきたいと思います。

(会長) 今回のポイントは、実は第1次の計画を見ていただくと、この5番のところは結構盛りだくさんで、実は、進捗という観点でいえば、5章は0なんですよね。だから、70%達しなかったですね。ですから今のご指摘は、第2次計画が始まったところから、しっかりと作るというのは、計画書の作り込みになっていますけれども、それでは遅いということであれば、ここをしっかりと書いていって、今、P(プラン)はした訳なんで、D(ドリ)が70%いかなかったという反省があり、C(チェック)をしたかということです。確かに、70%いかないというところは、チェックをしたけれども、なぜいかなかったのかというところが、まだいかないからA(アクション)を改善、第2次の改善が出てこないという状況だと思うのです。ですから、我々がこのテーブルでAとかBとかつけるのは、勝手ですけれども、それが、改善として、他の部署が実行するものに反映されなければ、それはいつまでたっても変わらないので、ここでは改善の案は出すけれども、繋がらないということになりますから、だからPDCAをやるというのは、この中でPDCAやってたのでは変わらない。全体として市民も含めて、Pに参加してもらったり、行政として、市民と協働でAをやるというようになっていかないと。それは、実現しないというふうに思っただけだとよろしいかと思えます。是非一度、1次の報告書の最後の5章のところ、ご覧になると、いろいろ素晴らしい事が書いてあるので、それができたかできてないかを、それぞれの委員の皆様方の目でチェックしていただくと良いかなと思います。

(委員) 皆様のご意見を聞きまして、自分がスポーツを一生懸命やっている頃は、すごくやる気を感じている年代があったのですけれども、年を重ね、周りでスポーツをやる方も段々なくなってきてしまい、いかにそういう人達が回覧を回しても、もっと来るかと思っただけでも参加してくる人数は、意外と少ないです。月2回やって、そういった情報を流しても、なかなか来てくれない。やはり、高齢になって、こういうスポーツというものもやらなければいけないというのは重々わかっていると思います。皆様も一般の方たちも。でもなかなかそこに出てこれられない。そういうことをどうしたら良いか、こういうところうたって、気軽に出来る何かがあったら良いかなと思うのです。あきる野市は音楽と体操のまちとか、キャッチフレーズがありましたよね。だから、そんな呼びかけができるように、文章難しくて出てこないですけども、よろしくをお願いします。

(会長) 計画書全体ができ上がった後にはおそらく、概要版みたいなもので、すごくわかりやすく伝えるようなものを作りたいと思いますので、今のご意見は、難しくてもわからないより、やってみたい、行ってみたいという気持ちになるような、そういった工夫も是

非、アイデアを出していきましょう、ということですかね。今日はこれで終わりにしたいと思います。

4 その他 次回の審議会の日程調整について

5 閉 会 副会長